

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①専門性を追究した教育活動を充実させる。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。 ④学習指導方法の改善を推進する。	①専門生に対する目的を持った意欲的な学習活動を推進する。 ②商業と工業の連携による学科を超えた教育活動を充実させる。 ③④授業改善のテーマに「55分を効果的に活用した授業展開の研究」を上げ、主体的・対話的で深い学びの授業を実践する。	①資格取得や有用な各種検定への合格対策講座を定期的に実施する。 ②「総合的学習の時間」および「課題研究」で学科を超えた教育活動を充実させる。 ③④教科会で「55分を効果的に活用するための授業展開」について検討し、具体的な取組を実施する。また、研究授業において、テーマを踏まえた取組の成果を発表する。	①資格取得や各種検定の合格者が増加したか。 ②商業と工業の学科を超えた連携事業を充実することができたか。 ③④教科全体として、共通な取組を行うことができたか。また、テーマを取り入れた研究授業ができたか。					
2 生徒指導・支援	①社会人基礎力と豊かな人間性を育む。 ②主体性を育み自立した人間の育成を図る。 ③教育相談体制の充実を図る。 ④学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。	①生徒個々の日常的行動や動向を注視し、生徒とのふれあいを通して基本的な生活習慣や規律、マナーを身につけさせる。 ②校内外の巡回指導など、地域と連携しながら、生徒のマナーの向上を図る。 ③スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実に努める。 ④学校行事や生徒会活動、部活動について、グラウンド改修への対応を計画的に行う。 ④生徒主体の学校行事を実施するとともに、部活動加入率を上げ各部の活動の活性化を図る。	①基本的な生活習慣や規律、マナーが定着するために、保護者や関係部署と連携・協力し、声かけ等の指導を積極的に行う。 ②遅刻をなくすために、保護者と連携した生活習慣全般の改善を指導する。 ③カウンセラーの来校日について広報し、カウンセリング室をより活用しやすい雰囲気づくりを行う。 ③生徒の心の悩みをいち早く認識できるよう努め、解決に向けて、職員、保護者、カウンセラーと情報交換を密に行い、教育センター等の連携した取組を行う。 ④グラウンド改修を想定した学校行事を立案する。 ④部活動加入率を上げるべく、各部の活動を広報する等の方策を立案し、実施する。	①生徒の生活習慣の定着のための組織的な指導ができたか。また、挨拶をする生徒が増加したか。 ②遅刻防止指導を年5回以上実施し、遅刻の回数が減少したか。 ③毎学期のカウンセリング日程等の広報が行えたか。 ③生徒の抱える問題や情報を把握し、支援体制が有効に機能したか。 ④グラウンド改修に対応した学校行事の計画・実施できたか。 ④積極的に学校行事に参加する生徒が増えたか。 ④前年度より部活動加入率が上がったか。また、活性化した部活動が増えたか。					
3 進路指導・支援	①実践的・体験的学習の機会拡大と充実を図る。 ②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。 ③進路相談体制の充実を図る。	①②商業と工業の連携を強化し、キャリア教育の推進と生徒の主体的な活動への支援を通して基礎的・汎用的能力と自分の進路を自分で描き、実現しようとする力を育成する。 ③進路閲覧室の充実と支援の足並を図る。	①キャリア教育実践プログラムのもとで、商業と工業の連携による学科を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会等を実施する。 ②インターンシップや体験的な活動を通して勤労観や公共心を養い、自分の進路を自分で描き実現しようとする力を育成する。 ③進路指導（進路相談）のために必要な資料をそろえ、生徒の意識啓発につながるよう見やすく配置し、生徒が主体的に活	①学科の枠を超えた各学年の状況にあった進路ガイダンスを実施し、キャリア教育の推進に繋がったか。 ②校外における活動に参加する生徒が増加したか。 ③生徒が主体的に活用するための整備ができたか。 ③LHRや総合的な学習の時間を有効に活用できたか。					

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			用できる環境を作る。 ③進路表現のための基礎学力定着をさせるためにガイダンスグループと学年との協力体制を確立させ、生徒情報の共有を図り、LHRや総合的な学習の時間を有効活用しながら就職・進学についてきめ細かな指導を行う。						
4	地域等との協働	①学校運営協議会制度を導入し、地域との協働を図る。 ②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	①学校運営協議会設立の準備を進める。 ②広報活動に今まで以上に力を入れるとともに、ホームページやポスター等の情報発信の内容を充実させる。 ②年間計画の全体像を把握しつつ、広く地域交流を図る。 ②部活動をはじめとする生徒の様々な活動を校内外に発信する。	①設立に向けた準備を始める。 ②生徒主体の学校説明会を発展させるために、計画的に動く体制を整える。 ②ホームページでの速やかな情報発信に努める。 ②地域交流の行事などへの参加を、学校全体呼びかけ、協力をあおぐ。本校の状況を地域の方々に理解していただき、地域交流を立案する。 ②他のグループと連携し広報委員会の活動を深化させることにより、情報発信を速やかに行う。	①設立の目処がいついたか。 ②専門高校の魅力や特色を伝える広報活動ができたか。 ②生徒の企画・運営による学校説明会等の広報活動ができたか。 ②ホームページ等の情報発信を効果的、かつ速やかに行うことができたか。 ②充実した地域交流が行えたか。 ②広報委員会の情報発信が速やかに行えたか。				
5	学校管理 学校運営	①安全安心な学習環境を維持構築する。 ②ミッションに沿った学校経営の推進を追求する。 ③教育公務員としての規範意識を醸成する。	①グラウンド改修の情報を全職員で共有し、安全に行うようにする。また、改修後の学習環境を速やかに整える。 ②PDCAサイクルを実践する。 ③人権等の職員研修を充実させる。	①グラウンド改修の計画を周知徹底させる。 ②中間時に1度検証し、後半に活かす。年度末に1年間を総括する。 ③職員の規範等の意識向上のために、人権・体罰等の研修を全員参加で行う。	①情報が共有され、グラウンド改修が安全に行われたか。 ①改修後の問題点に速やかに対応できたか。 ②PDCAサイクルを実践できたか。 ③職員研修により、職員の規範意識の向上を図れたか。				